令和５年度園評価　　大垣市立三城幼保園

１．園の保育・教育目標

よく考え　みんな仲良く　元気な子

２．前年度園評価や幼児教育指導の方針と重点などを基にした園経営の重点及び具体的方策

○自分の興味ある遊びに向かい、とことん楽しむ子を育てる
・自発的な遊びが楽しめる「わくわくタイム」を設け、玩具や用具が取り出しやすい環境を整える。
○異年齢の友達や保育者など多様な人に信頼感をもち、関わりを楽しむ子を育てる
・クラスや学年の枠を超え、日々の遊びや生活、行事において、異年齢が交流できる環境を整える。
○楽しんで体を動かし、充実感や達成感のある毎日を送る中で意欲的な子を育てる
・園庭遊びや散歩、運動遊び等１日 90 分体を動かして遊ぶ環境をつくる。

３．評価項目の達成状況及び取組状況　　＜4 段階評価＞

短期目標	自己評価	保護者評価
(1) 好きな遊びを見つけ、自己発揮しながら繰り返し遊ぶ。	3.5	3.7
(2) 一人一人がやりたい遊びをする中で、試したり工夫したり、考えや思いを表現したりする。	3.5	3.7
(3) 様々な人と関わることが好きだと感じられる。	3.1	3.4
(4) 積極的に体を動かして遊び、運動することが好きになる。	3.2	3.4
(5) 地域の自然や人に関わり、親しみをもって地域に出かける。	2.6	3.6
(6) 園と家庭とが情報交換し、共通理解を図って子育てを行い、子どもの育ちを喜び合う。	2.9	3.6
(7) 園は、大災害を想定した訓練を行い、対策の見直しを図る。	3.4	3.7

４．自己評価結果の概要

○日々の終礼と園内研で保育を語り合い、多様な意見をもとに遊び環境の再構成を行ったことで、遊びに連続性が生まれ、発展した。
○朝から「わくわくタイム」を設け、園庭に出て自分のやりたい遊びに向かい、活動的に遊んだ。また、園外保育も計画的に行ったことで、体力がつき、心が安定した。体と心の育ちが、話を聞く力や考えて行動する力につながった。
○毎日、園庭で異年齢児が自然に関わり、上の学年の遊びを真似たり、下の学年の世話をしたりして関わりを喜んだ。親しみや憧れ、いたわりや思いやり、大きい子としての自覚等が育った。
●縦割りクラスの交流は保育者の意図性が強くなりすぎ、子どもの主体的な関わりが少ないところがあった。方法に再考が必要である。
●子どもたちが自ら歌を口ずさむことが少なかった。また、楽器に触れる機会も増やしていけるよう、音楽指導の研究を充実させたい。

５．保護者による評価及び意見の概要

○戸外遊びや散歩などを通して、継続した体つくりがされている。
○異年齢の交流があることで、声を掛け合ったり、刺激を受けながら遊んだりしている。多くの保育者とも関わり温かい雰囲気が伝わる。
○子どもの発達や園の教育について話を聞く機会があった。園全体で子どもたちの成長を考えられている。家庭育児にも役立てられた。
○遊びが盛り込まれた行事から、普段の園や子どもの様子が伝わった。
●音楽に触れ合う機会が少なく感じる。室内遊びも強化してほしい。

６．関係者による評価及び意見の概要

○年齢に応じた活動が計画的に展開されている。
○遊びを自ら選択できる環境が整えられている。
○外で元気に遊び、よく歩ける丈夫な子に育っている。
○異年齢が交流して遊び、コミュニケーション力が育まれている。
○季節や行事が大切にされている。経験が遊びの中で表現されている。
●子どもの育ちを支えるために、より一層保護者への働きかけをするとよい。
●全職員の資質向上に努め、保護者が頼れる職員でありたい。

７．次年度に向けて

・日常的に異年齢児が交じり合い、五感をつかって戸外で元気に遊ぶ時間と場の確保を行い、引き続き充実させていく。
・室内遊びやクラスの課題活動、生活面等における目標や内容についての発信が少なかった。保護者と子どもの発達を共有しながら、家庭育児に活かすわかりやすい発信に努め、園と家庭とが、より協同的な子育てを行えるようにする。
・子どもが音楽により親しめるよう、保育者の指導力を高める。